

そよ風

第6号

今治市立立花中学校

最近のテレビCMは工夫が凝らされ、魅力的な作品がたくさんあります。しかし、「CMになると家族の中で自分だけ分らず寂しい」と多くの聴覚障害者は感じているといいます。そうした声をきっかけにして、テレビCMに字幕（注）を付ける取り組みを始めた企業をご紹介します。

テレビのリモコンに「字幕」ボタンがあるのをご存知ですか？ 地上デジタル放送への移行により、このボタン操作で、字幕の表示と非表示を切り換えられる字幕放送が増えています。

字幕は、聴覚障害者や耳の聞こえづらい高齢者などに有効だけでなく、大きな音が出せない病院の待合室などでも活用されています。さらに、災害など緊急時の情報提供にも不可欠です。

日本には、耳の不自由な方たちが難聴者を含めておよそ2,000万人いるといわれています。つまり、人口の約15%が、テレビ放送の音声情報を得にくい状況にあるのです。そのため総務省では、放送を通じた情報を保障するため、字幕放送や副音声による解説放送、手話放送の充実化を進めています。

しかし、CMは民放での全放送時間の約20%を占めているにもかかわらず、字幕はありませんでした。そこで近年、取り組まれているのが「字幕付きCM」です。

花王株式会社は、CMに字幕を付けるきっかけになったのは、聴覚障害者の「CMにも字幕があれば」の一言でした。2011年2月、社内のクリエイティブ部署の3名で研究プロジェクトが発足しました。「最初はナレーションをただ文字にすればいいと考えていました」と菊池雄介（きくちゆうすけ）さんは振り返ります。「テスト版を聴覚障害者の方々に見てもらい、意見交換を重ねながら花王独自のガイドラインを策定しました。字幕表示の位置を決めたり、BGMや効果音をどう表現するかなど課題は多かったですね」

林佳文（はやしよしふみ）さんは、聴覚障害者からの感想に手応えを感じています。「“CMって短い映画のようですね”と言ってくださいました。また“家の中に花王製品が増えていた”という声も。字幕があれば健聴者と同じように見ていただけるのです」（林さん）。また、「聴覚障害のある年頃の娘さんが、“化粧品情報を直接受け取れるようになった”という母親からの喜びの声もありました」。

花王では、年間約300本制作するCMすべてに字幕をつけ、ホームページで公開していますが、字幕付きでテレビ放送できるのはそのうち3%ほどです。これは、字幕が他社のCMにずれ込む放送事故の防止など、放送局のシステム検証が不十分なためです。そのため現在、放送事業者でつくる民間放送連盟が中心となり、1社提供枠の番組に限り、トライアル放送を行い、検証を重ねている段階です。

テレビ放送による情報は、誰でも等しく受け取る権利があります。CMにも字幕が付くのが当たり前になるまであと少し。ぜひ一度、リモコンの「字幕」ボタンを押してみませんか？

